

「のん太の家庭科室」 2024 年度活動報告

人間生活教育学コース「のん太の家庭科室プロジェクト」

2021 年度からスタートした「のん太の家庭科室」は、2021 年のはのべ 149 名、2022 年のはのべ 243 名、2023 年のはのべ 174 名の市民の皆様にお越しいただき、学生たちとともに、幅広い年代の地域の人々が、ものづくりの楽しさを体験する学びの場として定着しつつあります。

2024 年度は、4 年生が主となり、卒業研究として、「生活体験を通してウェルビーイングを考える」をテーマとし、道の駅湖畔の里福富（6 月）、西条こども食堂コジー（8 月）、道の駅西条ののん太の酒蔵（10 月、11 月）において、計 4 回講座を開催しました。のべ 100 名の参加がありました。また、10 月には、「Patagonia Worn Wear College Tour」が広島大学で開催され、「のん太の家庭科室」はダーニングブースとして出展し、41 名が参加しました。

【写真で振り返る 2024 年度講座】

4 年生が初めて主催した道の駅湖畔の里福富（6 月）では、ホールを会場に各テーブルにピンクの T シャツを着たスタッフを配置し、参加者のものづくりをサポートしました。クロスステッチ刺繍を行いました。



出来た作品を早速身に着けて。様々な図案のアレンジが見られました。



子ども食堂（8月）で行った食育ゲームでは、世代を問わずたくさんの家族の交流が生まれました。昼食後の羊毛フェルトの講座では、実際に地域資源に触れ、オリジナルの作品づくりを行うことができました。3世代の参加者が地産地消について学び、協力して楽しくゲームに取り組む様子に、スタッフも感激しました。



10月の講座では、午前羊毛フェルト×ボタン付け、午後ダーニング刺繍を行いました。2022年7月にオープンした「道の駅西条のん太の酒蔵」での開催も今年で3年目となります。午後には、3名の外国人も参加し、参加者の方々が他の参加者の方と楽しく交流している姿が見られました。





11月の講座では、10月と同じく午前には羊毛フェルト×ボタン講座、午後にはダーニング刺繍をお行いました。1名の外国人も参加し、当日参加の方も積極的に受け入れました。想像を膨らませながら、かわいらしい作品を作っている様子が見られました。午後にはいらっしゃったリピーターの方には、その他の種類のダーニングについて紹介したり、持参してもらった布にダーニング施したりと、様々なアレンジをする姿が見られました。



さらに今年は、アウトドア用品ブランドである Patagonia と連携し、ダーニングブースを出展しました。修繕したい衣服を参加者に持参してもらい、スタッフのサポートのもと、ダーニング刺繍で衣服の修繕を行いました。広島大学の学生や地域の方、親子など様々な方が参加し、オリジナルの衣類に仕上がっていく様子を見ることができました。



今年最後の講座を終えたスタッフには満足した笑顔が見られました。



2024年度講座を主催した学生の声です。

【4年生（池田彩華，松浦百華，伊賀崎莉子，甲斐温菜）】

本年度も「のん太の家庭科室」の活動を応援してくださり，ありがとうございました。本講座では，参加者の方々が家族や地域の人，外国人との交流を通して，ものづくりの楽しさや喜びを体感することができました。講座後には，「家だと興味がよそへ行ったりあきらめることがありますが，他の皆さんと作っているととても集中し，最後まで頑張っているなと思います。丁寧に教えてもらえてありがたく，自分の作品もお気に入りになっているようです。」，「針を持つことへの抵抗が子供，私も減っている気がします。自分が手を加えることの面白さを感じれたのではないかと思います。」，「スタッフの皆様のおかげで，日本語があまりわかりませんが，作品を完成させることができました。」などの声をいただき，講座によって子供たちの成長を実感する機会となり，市民・外国人の方々にも，本講座が喜んでいただけるものになったことを嬉しく思います。

本講座は，ものづくりの技術や知識を身につけるだけでなく，子どもたちの自己肯定感や社会性やコミュニケーション能力の向上にもつながっていると感じています。子どもたちは，自分の作品を他の人に発表したり，他の人の作品を見ることで，自己肯定感が高まり，共感力，傾聴力を身に付けることができます。また，異なる価値観や文化を持つ人々と交流することで，視野が広がり，協調性やコミュニケーション能力が向上します。さらに今年度は「SDGs」に焦点を当て，題材の選定，講義を行ったことにより，環境についても考えるきっかけになりました。

これからも，子どもたちが家庭科を楽しみながら，豊かな生活（ウェルビーイング）を送ることができるよう，本講座の活動に貢献していきたいと思います。来年度以降も，「のん太の家庭科室」を引き続きよろしく願いいたします。